

ローカル版「知的対流拠点」づくりマニュアルの改訂

全国の幅広い地域における地域主体の先行事例（13事例）を収集するとともに、それらの事例から見出された、今後、地域発イノベーションに取り組む地域にとって、有益であると考えられるポイントを手順として整理（平成29年3月30日報道発表）。

マニュアルの特徴

全国から幅広く事例を収集（人口5万人未満から30万人を超える地域まで）
 地域資源を活用した様々な取組を収集（農産品や観光資源の活用、ものづくり集積・産地の活用、大学等による研究成果・技術の活用等）
 事例ごとの具体的な取組のポイントを手順として整理

時代経過に伴う社会情勢、地域をとりまく環境の変化など様々な状況変化にいかに対応し、維持・発展させているのか

『先行事例（13事例）』

限界集落と言われた地域が地域産品で10億稼ぐ地域に!!（四万十町）
 日本の甲州が世界のKosyuへ ワインで真価を発揮する地域（甲州市等）
 いつもの食材がヘルシーだった [食]と[健康]で新たな価値を生み出す地域（江別市）
 南信州全体で160のエコツアープログラム 年間5.5万人を集客!!（飯田市等）
 スポーツを核に島まるごと資源で活性化を目指す（佐渡市）
 アートも資源、空き家も資源 3.5千人の地域に6千人が訪れる（養父市）
 伝統漆器に新たな息を “kawatsura SHI-KI”が産まれるまち（湯沢市）
 眼鏡づくりの先端技術で「作って「売る」産地」へ（鯖江市）
 世界に誇る デニム産地の一体的なPR（福山市等）
 地域に集積する技術を活かし航空機産業に挑戦 未来に羽ばたく地域（新潟市）
 企業誘致ではなく内発型振興 地域の新たな産業支援モデル（上田市等）
 世界最先端研究と新産業創出の拠点で世界の人材を惹きつける（鶴岡市）
 バイオの一大集積でアジアを巻き込む“Fukuoka Bio Valley”（久留米市）

とりまく環境の変化が大きいと想定される地域について、地域バランスを考慮しつつ5事例を抽出

本マニュアル策定のための調査以降の約2年間の取組について、フォローアップ調査等を実施

知的対流拠点づくりの流れ 改訂のポイント

